

令和 6 年度 学校評価報告書 【国立市立国立第一中学校】

学校教育目標	― 自ら学び、考え、自主的な行動をしよう。（重点目標） ― 豊かな創造性を養おう。 ― 思いやる心をもとう。（重点目標） ― 健康な心身をつくろう。	重点目標	自ら学び、考え、自主的な行動をしよう。 思いやる心をもとう。
--------	---	------	-----------------------------------

学校教育目標	中期的目標	短期的目標	具体的な方策	評 価 指 標	達成状況		分 析	改 善 策	学校関係者評価
（う。自ら学び考え自主的な行動をしよう）（重点目標）	確かな学力の向上	指導方法及び指導計画を適宜見直しながら、学びの質を高める。	①本時のねらいを明確化するために毎授業で黒板に提示し、学習に見通しをもたせる。 ②一人1台端末及び教育支援ソフトを活用した授業を行う。 ③放課後学習教室を充実させる。	①生徒授業評価アンケートの教員の指導面のアンケート結果、及び教員の反省アンケートの結果の肯定的な意見を共に80%を超えるようにする。 ②校内研修を学期1回実施し、一人1台端末及び教育支援ソフトを活用した授業を全教員が行う。 ③放課後学習支援員の確保と教室を年間20回以上実施する。	B	A	①生徒アンケートの結果からは、ほとんどの項目において80%を超える評価を受けていた。 ②7月末のアンケートで数字の低かった一人1台端末の項目も、12月末の2回目のアンケートで8%数字が上昇する等、全ての項目において2回目数字の上昇が見られた。OJT研修では「google sight」や「Canva」の使い方等のを3回実施することで、技能向上につなげることができた。 ③放課後学習教室は、年間29回実施し、約20名の生徒に対して5名の支援員で計画通り実施できた。	①目標の評価を達成でき、本時のねらいの提示や、個→集団→個の授業形態も以前よりは浸透している。今後もさらなる授業力の向上を目指す。 ②一人1台端末の活用項目の数値がその他の項目と比較すると、やや低かったので、教科によって親和性の違いはあるが、板書の時間の短縮や、視覚的な支援をすることでより授業内容を充実させることができることを周知させ、活用率を高めたい。今後もOJT研修を繰り返し行うことで、一人1台端末及び教育支援ソフトを活用した授業における、更なるスキルアップを図っていく。 ③放課後学習教室の継続については、学力向上の底上げにつながっているため今後も継続していく。	B
		個別最適な学びと協働的な学びを一体的に充実し、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業を行う。	①数学、英語で習熟度別及び少人数による指導を充実させる。 ②スマイリースタッフによる学習支援の充実を図る。 ③質の高い課題設定及び主発問を工夫する。	①少人数授業を年間で80%以上実施する。 ②昨年度よりもより多くの生徒へ関わる時間を増やす。 ③学期1回の管理職による授業観察とその振り返りを行う。 ・教員同士の相互授業参観を学期1回行う。 ・生徒授業評価アンケートの自己評価部分の肯定的な意見を80%を超えるようにする。	B	B	①少人数授業に関しては、英語に関しては計画通り実施できていた。 ②昨年度よりも個別対応の生徒が増えており、本来の学習支援のサポートが行き届きにくい状況になっており、教育環境コーディネーターも入って連携をとりながら進めてきた。 ③管理職による授業観察、及び教員同士の相互授業参観を学期に1回行うことで授業改善を図ってきた。生徒アンケートの自己評価に関しても、肯定的な意見が90%を超えており、且つ、2回目のアンケートでは数字の上昇も見られることから、授業の質の向上につながっていると考えられる。	①数学については、教員の体調不良もあり、充分な個に応じた指導につなげられなかったが、次年度に向け習熟度別少人数授業の実施に向けて準備を進めている。 ②今後、個別対応に必要な生徒が増えていくことも考えられるので、スマイリースタッフをはじめとした支援員との連携や、より手厚いサポート体制が実現できるよう、諸機関との連携を含め働きかけていく必要があると共に、校内体制の見直しも検討していく必要がある。 ③相互授業観察も継続して行うことで、授業力の更なる発展を図っていく。	
思いやる心を養おう（重点目標）	心の教育の充実	基本的生活習慣の確立	生徒が自ら進んで元気な声であいさつをする心を育てる。生徒会活動の取組としてあいさつ運動を実施する。	・生徒アンケートで「生活習慣を身に付け、礼儀や学校のきまりを守っている」の肯定的な意見の割合を合計90%以上にする。	B	A	①生徒アンケートでは、約92%の生徒が「とてもそう思う」「そう思う」と回答していた。しかし、生徒によっては身だしなみが整わない生徒もいるため、全校や学年で共通の声かけをしていく。 ②2月にスクール・パディも生活委員会と一緒にあいさつ運動をするなど活性化を図ることができた。	①生活習慣が不規則な生徒が一部いるので、社会に出るために必要なこととして、基本的生活習慣の確立に向けて家庭と協力して定着させていきたい。 ②今後も生活委員やスクール・パディを中心にあいさつ運動を継続し、主体的なあいさつの励行を促進させる。	B
		多様性に気付き、自他を認め共生する心をもった生徒の育成	①人権尊重教育推進校としての取り組みを充実させる。 ②インクルーシブ教育を充実させる。 ③特別支援学級との交流・共同学習を行う。 ④「考え、議論する道徳」の実践のためのローテーション授業を行う。	①生徒会活動等、生徒主体での諸活動の実施（カジュアルウィーク、ルールの見直し、芝生維持活動の推進）。 ②様々な取組（生徒会やスクール・パディ）からの多様性を認め合う呼びかけを増やす。 ③行事や特別活動を中心に交流学習を実施する。 ④年3回以上実施し、学期末の道徳の振り返りや、各行事・授業での反省をもとに評価する。	B	B	①生徒会主体でカジュアルウィークを各学期に1度行った。ルールの見直しは、生徒会役員主体で話し合いを進めている。芝生の活動は今シーズンは無事終了した。 ②各専門委員会の取り組みや生徒会便りを定期的に出し、生徒への呼びかけをした。 ③体育大会や校外学習、部活動でA組との交流ができていた。 ④学年ごとに、4回目のローテーション道徳を行った。生徒に考えさせ、話し合う道徳の授業をさらに工夫していく。	①各学期でカジュアルウィークを行ったが、逆にストレスに感じている生徒も少数いたので、多様性を表現したり認め合う趣旨であることを様々な場面で伝えていきたい。 ②各種便りの内容を、充実させたり、すぐる配信するなどして保護者にも周知し、生徒の自主的な動きを活性化させていきたい。 ③今後も、各教科など交流の機会を増やし、互いの交流及び共同学習を推進していく。	
		いじめ・不登校傾向の早期発見・早期対応 魅力ある学校づくり	①いじめに関するアンケートを実施する。 ②生徒によるいじめ予防活動（スクール・パディ）を活性化させる。 ③学校生活満足度調査を実施する。 ④学年ごとに構成的グループエンカウンターを実施する。	①アンケートを各学期1回（6月、11月、2月）実施し、気になる生徒への聞き取りを確実に行う。 ・生徒アンケートで、「いじめをせず、許さず、見逃さない態度が身に付いている」の良い意見の割合を85%以上にする。 ②毎月定例会を実施、通信を発行し、生徒会朝礼で、スクール・パディの発表をする機会を設定する。 ③年2回実施する学校生活満足度調査の結果を比較し、良い方向に移行しているかの検証を行う。 ④適切なタイミング(学期初め、行事、班替え等)を捉えて実施する。	C	C	6月にいじめの重大事態が発生し、現在継続している様子は見られないことから解消したと判断しているが様子を注視している。今後の再発防止に向けて、校内いじめ対策委員会の開催の迅速化と、怪我に対する初期対応等について全教員で研修を行い、実施できている状況である。 ①11月の結果、軽微ないじめがあるので聞き取り及び指導を行った。 ・生徒アンケートで、約85%の生徒が「とてもそう思う」「そう思う」と回答していた。 ②1年生のスクール・パディ講習会を3回行い、朝礼で活動の発表といじめ予防への呼びかけを行った。 ③2回の学校生活満足度調査の結果を比較して、生徒の潜在的な心情を探ることができ、生活指導、校内支援に役立っている。 ④各学年、学期の始めや、校外学習の班編成等のタイミングで、交流として楽しみながら実施した。	いじめ重大事態の発生の反省を踏まえて改善した体制の実効的な運営を徹底する。 ①いじり、いじられがあるので、親しき仲にも礼儀ありを忘れず、関わり方を考えるように指導していく。 ②スクール・パディの取組を朝礼や便りによる発信に加え、日頃の生徒同士の関わりの中で、いじめ予防の雰囲気ができるように促していく。 ③学校生活満足度調査の結果を参考にして、引き続き生徒の様子を見ていく。 ④構成的グループエンカウンターの意義やルールを確認し、生徒の実態に合わせて実施し、人間関係を円滑にし交流を深めていけるようにする。	
		情報モラル教育の推進	①セーフティ教室において、SNSの使い方等の情報モラル教育を実施する。 ②SNS一中ルールの周知・徹底からSNS家庭ルールの普及へつなげる。	①セーフティ教室への保護者の参加を促し、SNS家庭ルールの確認の契機とする。 ②SNS一中ルールの周知・徹底を、いじめアンケート項目に入れ検証を行う。 ・全家庭でSNS家庭ルールを作成させ、SNS一中ルールを合わせて徹底させる。	B	B	①SNSのセーフティ教室を土曜の学校公開と合わせることで、生徒はもちろん、多くの保護者にも家庭教育について促すことができた。 ②生徒アンケート「SNS一中ルールを理解し、情報モラルを意識して生活している」で、約85%の生徒が「とてもそう思う」「そう思う」と回答した。また家庭ルールはあるが、きちんと守れていないと答えた生徒も多いので、継続して指導していく。	①次年度もセーフティ教室を保護者も参加できるようにして、引き続き情報モラルの家庭での指導を促していく。 ②SNSのトラブルから学校に情報上がり、聞き取りや指導を行うケースがいくつかあったこと、またアンケートの結果から、特に使用時間の長さに関する課題があるので、引き続き生徒が主体となり、家庭に使い方やルールについて情報発信をしていく。 ・SNSの使い方や、闇バイト等生徒を取り巻く危険な情報等について、すぐる	
豊かな心身をつくろう	豊かな心や創造性の涵養	郷土を愛する心の育成	環境整備活動を通して地域の一員としての自覚と誇りを培う。	①生徒と地域の方で、花植えの打ち合わせを花植え前に実施し、一橋大学前バス停一中花壇の整備を定期的に、花植えを年2回行う。 ②花壇の維持管理を生徒主体(美化委員会)で行う。 ③駅前花植えボランティア、チューリップロードの定着を図る。	A	A	①6月と11月に花植えを実施した。花植えの前に花壇整備、レイアウト作成も行った。 ②花壇整備を行うボランティアの募集、呼びかけを美化委員が行った。 ③11月に2年生が駅前の花植えを実施した。 ・11月に1年生が校庭周りにチューリップの球根を植えた。 ・定期的に美化委員会と保護者が協力して校庭芝生の整備を行った。 ・校内の桜の芽接ぎ、接ぎ木活動をボランティア生徒で行った。	①環境美化活動を美化委員が発信し、生徒主体で活動する体制を定着・維持していく。 ②自主的な環境ボランティア生徒がより増えるように、日常の声かけや各教科や特別の教科 道徳、特別活動等を通じて生徒の心の成長を促し、実践行動につながる働きかけを学校、地域、家庭で連携して行う。 ③地域に喜ばれたり、感謝されることに誇りをもち、地域の一員としての自覚を高めるよう、様々なボランティア活動を今後も計画、実施していく。	A
		特別活動の充実	①各学年が実施する校外学習、体験学習を充実させる。 ②生徒が主体的に創り上げる学校行事や生徒会活動を充実させる。	①自然体験教室（1年・1月） ・東京グローバルゲートウェイ校外学習（1年・9月、2年・8月） ・校外学習（2年・1月、A組・5月 11月） ・職場体験（2年・A組・10月） ・修学旅行（3年・6月～9月） ②体育大会（全学年・4月～6月） ・合唱コンクール（全学年・7月～10月） ・生徒会活動の活性化。（年間）	B	A	①1月の自然体験教室を実施した。決めたルールを守り、係の仕事に責任をもって行うことができた。 ・1年生は9月、2年生は8月に 校外学習を実施した。1年生は全日実習で、英語の苦手な生徒は時間をもてあます場面があった。 ・A組は、5月にコカ・コーラ工場へ、10月には千葉方面に合同宿泊、11月にサイエンスドーム他へ行った。12月19日にマラソン大会を予定している。それぞれの行事で、着実に力を付けることができていた。 ・全員が職場体験を実施できた。コミュニケーションが苦手な生徒、外国人生徒の体験先の選定が難しかったが工夫して充実したものとなった。 ②怪我もなく安全に体育大会を終えることができた。 ・修学旅行を予定通り行うことができた。不登校生徒も参加することができた。 ③大きなトラブルなく、時間通り合唱コンクールを行うことができた。 ・カジュアルウィーク週間の実施や、芝生ボランティアなど新しい試みを行うことができた。	①東京グローバルゲートウェイでの英語体験をはじめ、校外学習でしか経験できない貴重な体験をより効果的に実施するために事前学習を充実させ、生徒自身が課題を見つけ解決する意識をもたせる。 ・職場体験に関して、事前に事業所の方とも密にコミュニケーションをとり、様々な生徒の特性を伝えた上で実施できるよう関係を強化する。 ・修学旅行はインバウンドの影響で班行動が京都市内の困難になってきていることから、奈良中心の内容に変更するなど、現状に合った思い出に残る行事になるよう改善する。 ②次年度も好評だったPTAと連携し熱中症予防対策をしっかりとし、多様性に対応できる行事とする。 ・合唱コンクールは、働き方改革の観点との兼ね合いで時間内でより充実した内容になるよう模索していく。	
		生徒の安全確保対策の徹底	①生徒の実態を全教員で共通認識を図り、チームで対応ができる体制を作る。 ②防災教育、安全指導、緊急時に対応するための教員研修や特別活動を実施する。 ③PTAボランティアと連携して安全な体育大会を実施する。	①職員会議及び月1回の校内委員会で最新の情報を共有する。 ・行事前のアレルギー面談、行事前にはアレルギー調査（修学旅行・自然体験教室）を実施する。 ②様々な状況を想定した避難訓練を月1回実施する。 ・地域と連携した防災訓練についての工夫改善に取り組む。 ・交通安全教室を開催する。 ・教員のAED研修・救命救急講習、アレルギー研修（エビペンの使用方法を習得）を行う。 ③体育大会で熱中症予防対策を講じた運営を行う。	A	A	①朝の経営会議、運営委員会、校内委員会で生徒の最新の情報を共有し即時対応している。 ・行事前のアレルギー面談・調査を適切に実施している。 ②地震、火災、不審者の想定した避難訓練を実施している。 ・地域の協力を得て 避難所の人権問題等について考えさせ、集団下校訓練でトランシーバーを使用し、下校生徒の現在地の把握に役立てた。 ・11月にスケアードストレートを開催して実際の自転車事故を再現し、生徒にとって実際のな学びにつながった。 ・全教員が4月に消防隊員を講師に講習を実施し、AEDを使用した救急救命法を学んだ。 ・全教員が4月にアレルギー研修を行い、実際にエビペンを使用するシミュレーションを行った。 ③PTAボランティアの協力を得て、生徒席にテントを設置し、スポーツドリンクの提供を行った。次年度も継続したい。	①いじめの重大事態が発生した反省を踏まえ、情報の迅速な共有と対応ができるようにする。 ②全11回、適正に実施できた。 ・次年度も地域と連携した避難訓練の実施に向けて、準備を進めていく。 ・生徒が安全に生活できるよう安全維持のためのアイデアを家庭や地域と共有できる、また学校の活動を家庭・地域の還元できる体制を構築する。 ③体育大会ではテントとドリンク配布をや集団下校訓練のトランシーバーなど家庭、地域の協力で生徒の安全確保が維持されている。	